

2021年5月25日

第17回安全工学会総会 会長挨拶

今期、会長を務めさせていただいております三宅です。

本日は、第17回安全工学会総会にご参集いただきまして、誠にありがとうございます。

本年度の総会は、先ほど事務局よりご案内がありましたように、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う緊急事態宣言が発出されていることによりまして、総務委員会と理事会の議を経て、Web開催という形式に決定いたしました。開催に先立ちまして、多くの方々には、事前に委任状・評決票をお送りいただきましたこと、心より御礼申し上げます。

ご存知のように、令和2年度におきましては、社会活動が非常に縮小したことに伴い、学会の活動に関してもいろいろな制約を受ける中で行ってまいりました。しかしながら、そういった制約の中でも、各委員会の関係の皆様、それから会員の皆様の献身的な努力によりまして、当初の予定に比べてそれほど大きな影響もなく、各種の活動を展開することができたように思います。

各種の連絡については、リモート方式を導入・活用することによって、スムーズな議論や検討を行うことができ、非常に役立ちました。

対面方式での研究発表会、あるいはセミナー・研修会については、従来と形を変えてリモートWeb形式で実施することによって、あるセミナーにおいては従来の参加者数を大きく上回るということも記録しているようです。

このように、ピンチをチャンスに変えていくという発想の転換が必要であるということ、それから変える・変わるということであれば、新しい学会の方式、ニューノーマルな学会というものの構築に、ある意味での示唆を与えていただいたように思います。

就任時に学会誌の巻頭言に書きましたように、今後の任務も非常に困難の中でスタートした昨年度でしたけれども、今後の学会活動の礎となるように、学会のスタイルを構築できるということが提示できるように努力してまいりたいと思います。

学会のミッションというものは、当然ながら学術的な進化とその発展、そしてそれらの成果の発表、一方では人材育成、次世代の研究者・技術者の育成ということ、そしてそれらを通しての社会貢献ということが一般的でもあり、本学会の定款にも記されているところです。

残りの任期につきましては、コロナの収束を願うばかりでありますけれども、これまでの宿題をきちんと果たしつつ、上記の4項目に関して進めていきたいと思っております。

最後になりますが、本日の総会に当たりまして、大変なご尽力を賜りました総務委員会の皆様、それから理事・幹事の皆様、そして事務局の関係の皆様には、心より御礼を申し上げます。

私の簡単な挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。